



「博多町家」ふるさと館 tel.092-281-7761  
「はかた伝統工芸館」 tel.092-409-5450

① 部分ごとに型を作るので細かな動きの表現が可能。② 部分や柄に応じて筆を替える。③ 熊谷さんの作品「雛遊」。博多祇園山笠に使用される飾り山笠は博多人形師が描き作り出す錦絵の立体化。④ 伝統工芸品の展示をする「はかた伝統工芸館」。人形師によって生み出される造形は、あるものは猛々しく、またあるものは優美。その表現の世界は能、歌舞伎、縁起物、雛人形と多岐にわたる。⑤ 絵付け体験は2時間。あっという間に時間が流れる。⑥ 参加者の作品。



## Tastes of JAPAN by ANA

ANAは地域とともにまだ知らない日本の魅力を発見し国内外に広くお届けします。3月～5月は「翼の王国」で北海道九州を特集します。機内やラウンジでのサービス、取り組みに関しては「Tastes of Japan by ANA」の専用WEBサイトをご覧ください。

## 福岡への翼

東京(羽田)からANA便で福岡空港へ。空港からクルマで約20分。

「よくできていますよ」と熊谷さんが褒めてくれる。「頬は私がしましよ」と熊谷さんが、頬の色を入れてくれる。パツと明るい表情になった。一球入魂ならぬ、頬紅入魂。だ。実際に絵付けを体験すると、博多人形が醸し出す優雅さに、ほんの少し触れた気がした。博多人形に惚れた。

「息を止め、すっと描く。うまくいくときもあれば、少しはみ出るときもある。悩んでいると、熊谷さんは「小さいことは気にせず、さっと塗って大丈夫。あとで塗り重ねればいいから」と笑う。いつの間にか、周りの参加者たちと互いに意見を述べ合い、色の組み合わせや塗り方の技についてを共有していく。最後に目と口に色を置く。ここで失敗すると、それまでの苦労が台無しになってしまう。熊谷さんが用意してくれた薄墨を細い筆に取る。線一本では目をつむり物思いに耽る表情となり、黒目を入れると意志を持ったような顔となる。すっと線を引いてみる。

熊谷さん指導の下、『ふるさと館』で購入した素焼きの少女像に絵付けをしていく。下地を塗り、まずは髪の色を決める。土に吸収されるため、少し明るめの色にするというそう。髪、着物、帯、頭飾り、花の順に塗りあげる。絵の具を水で溶き、面相筆で塗る。

博多人形の歴史は古く、現在に残る製法の基礎がつくられたのは400年以上前だといわれている。長い時代を経て成熟し、日本を代表する人形の一つとなった。そんな博多の伝統文化に触れることができる場所がある。博多の暮らしと文化を伝える『博多町家』ふるさと館(福岡市博多区冷泉町)では週に数度、博多人形の絵付け体験をすることができる。この日の講師は伝統工芸士の熊谷強さん。50年近く人形師をしてきた方だ。

## 博多人形に惚れる

# 福岡県 博多人形